

# 政治学概論 |

(11) 政策と政権交代

# 首相と大統領

## ◆議会制民主主義での執政（行政）システム

政府（責任者＝首相・大統領） 議会（立法機能）の分立

議院内閣制⇒議会（代表者の議員）の中から政府責任者を選ぶ

大統領制⇒議員とは別に市民・国民が直接政府責任者を選ぶ

大統領＝多くは任期制、辞任には弾劾など特別な手続きが必要

首相（内閣）＝議会との関係で辞職する（内閣不信任）

ただし議会解散権で対抗できる

# 政策と官僚

◆政策の実施＝法律、政令、条例（議会で決定）⇒官僚が実行

官僚＝行政の実施スタッフ（公務員）継続的な身分保障  
政治家（議員、執政長官、首長）より法律や実務に通じる  
行政のプロ化、政治のアマチュア化 「官僚主導」の政治

議院内閣制⇒政府と議会多数党が事実上、一体化＝議会形骸化  
官僚の存在感（政策の継続性）大きな政策転換がしにくい

※政権交代の必要性

# 政権交代と民主主義

◆政権交代＝民主主義の前提・要件のひとつ

議会制民主主義⇒政党政治⇒二大政党制、多党制

A党とB党の交代・ABCD党の連立（小選挙区制・比例代表制）

※サルトーリ（イタリア政治学者）政党システム分析

デュヴェルジェ（フランス政治学者）選挙制度と候補者数

◆政権交代の意義

政策転換＝大きな環境の変化への対応 政府の専制化防止

腐敗防止（政権運営の緊張感）官僚と政権の癒着防止

# 政権交代と政治の安定

- ◆議会制民主主義で政権交代が起こり得る条件
  - 市民・国民（民意）の変化＝現政権への不満、政党支持の変化
  - 政党システムの安定 ⇔ 新興の乱立、小党分立
  - 三権分立の機能＝民主的政治システム運営の順守
- ◆政権交代によるリスク
  - 政治の不安定化＝中長期的な政策を実現しにくい場合も
  - 政策の継続性が失われる可能性（特に外交分野など）
  - 政治的対立・分断の激化 政争（政局）の自己目的化